



熊事研会報

第140号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 宮崎 文子
編集代表 研究部長 平野 哲也

～目次～

- 研究部の取組（研究部長挨拶）
- 令和3年度定期総会報告
- 令和3年度熊本県学校事務研究協議会研究会報告について
- 令和3年度事務局・研究部 新入部員紹介
- お知らせ

研究部の取組

熊本県学校事務研究協議会 研究部長 平野 哲也

本年度も、熊本県学校事務研究協議会（以下 熊事研）の研究部長を務めます、宇土市立鶴城中学校 事務主任 平野哲也です。研究部長は6年目になります。6年間の間に、熊本地震、令和2年7月豪雨、新型コロナウイルス感染症と、学校から「子どもたちの笑顔」を奪った出来事がありました。そして、令和2年度から、会員が一堂に会しての熊事研大会が開催できず、本年度もYouTubeを使ったライブ配信による開催となりました。

令和3年1月大会は感染症対策のために中止となり、令和2年度の研究のまとめを研究集録により会員に報告しました。令和3年度は第1次熊本版グランドデザイン研究5カ年にあたる節目の年ですので、過去4年間の研究をもとに「学校経営に学校事務職員が参画する」ためにどのような機能を果たさなければいけないか、「学校事務職員が意識しなければいけないマネジメント」と「リソースマネージャーをキーワードとしての経営案」の双方から研究を検証し、まとめました。会員の皆様にアンケートをお願いし、アンケート結果を研究部で考察しました。また、熊事研の先輩学校事務職員の取組から学ぶことがないか、熊事研の歴史を再確認することにしました。熊事研の歴史を学ぶなかで、先輩学校事務職員がまず取り組まれたことは「標準職務表の確立」です。学校事務職員が学校でどのような仕事をするか決まっていなかった時代においては、日々の業務のなかで、何を目指したら良いのか不安でいっぱいであったと思います。

人間の脳は「努力できる脳」と「努力できない脳」の2つに分かれるそうです。努力できる人は、脳の組織が「これをやったら報酬が手に入る。」という「報酬予測」に働きかけることにより脳内で多くの快樂を得て、それが努力するという推進になるそうです。逆に努力できない人は、「報酬予測」の機能があまり働かないことに加えて、物事の損得勘定を計算する脳組織の働きにより、「こんな努力をしても無駄」「割に合わない」と考えブレーキをかけてしまうそうです。

「仕事（努力）をしたいけど、何をしたら良いのかわからない。」「報酬を得ている以上は、報酬以上の仕事をしたい。」標準職務表の確立により、学校事務職員として仕事に責任をもって、できることに取り組みたいという先輩学校事務職員の声が、熊事研の歴史を読んでいて聞こえてきました。私たちが学校事務職員として仕事をするうえで、目指さなければいけないこと、先輩学校事務職員も同じように目指してきたこと、今も昔も変わらないもの、それは「子どもたちの笑顔」であることと感じました。ここから本年度の研究テーマの設定に取り組みました。

昨年度の研究テーマ・サブテーマは『連携』と『協創』は学校事務のイノベーション～振り

返る今の自分、創造する明日の学校～」でした。昨年度の研究テーマに関する思いは、「学校事務職員が外部機関とつながり（連携）、教員組織、事務組織といった枠組みにとらわれず、学校教育目標達成のために、教員が自らの授業を磨くとともに人間性や創造性を高め、子どもたちに対し効果的な教育活動ができるように学校事務職員が迅速かつ効率的に機能すること（協創）することが、意識変革と行動変革による新しい学校事務の創造につながる（イノベーション）」という思いで設定しました。

昨年度の研究テーマの「連携」と「協創」というキーワードを今年度の研究テーマに残し、熊事研の歴史で学んだ、今も過去も変わらない学校事務職員にとっての共有のキーワードである「子どもたちの笑顔」から研究テーマを決めることにしました。研究部員にアンケートを依頼し、子どもたちの笑顔が輝く場面やその笑顔に学校事務職員はどのように関わっているかを考えてもらいました。学校事務職員として、子どもたちの笑顔にかかわる業務はやはり財務関連の業務が多いことがわかりました。財務関連の業務でのかかわりは、新しいものを購入するだけでなく、現有のものを修理・改良したり、緊急に必要なものを調達したり、安心して安全な教育環境のために施設設備の維持管理に努めることで、これら教育に必要な資源（教育資源）を調達・開発・管理・活用・運用する学校事務職員を「リソースマネージャー」と定義しました。そして、研究のメインテーマを「リソースマネージャーとしての『連携』と『協創』」とし「子どもたちの笑顔を未来につなぐために私たちが今できること」をサブテーマとしました。

テーマに掲げる「イノベーション」や「リソースマネージャー」という言葉（カタカナ）について、「ちょっと難しそうだなー」と会員の皆様が思われるように、実は私も思います。しかし、研究部で討議し、研究の方向性を決める時は、様々な気持ちや思いや意味を含んでくれる英単語はとても便利です。研究部は答えを示す組織ではありません。研究部はテーマを掲げ、考え方を提案する組織です。そのため、研究部の提案事項が会員の皆様の解釈によって、手段や方法が変わってくると思います。ですので、曖昧なことを提案するのではなく、全国公立小中学校事務職員研究会や学校事務を専門に研究されている方の著書などを参考にしながら、熊本県の状況をみて、テーマを提案しています。

テーマだけではなく、研究部の取組についてもっと説明したいところですが、質問や御意見にお答えすることが研究部のことを知っていただくことにつながると思いますので、7月のライブ配信で会員の皆様からいただいた御質問や御意見についていくつかお答えしたいと思います。

Q1 研究テーマにある『笑顔』とは？テーマは分かるが『私たちが今できること』とは、具体的にどういったことか、何から始めれば良いのかが分からない。

A1 表情では笑顔でも、心の中は悲しんでいたり、辛いかもしれない。また、表情は悲しんでいても、心の中は笑顔かもしれません。『笑顔』にしてくれる、辛いことや悲しいことを忘れさせてくれる場所が、友達がいる学校ではないでしょうか。私たち学校事務職員は、何らかの要因により子どもたちを笑顔にしてくれる『学校』に勤めているという『意識』をもつことから始めれば良いと思います。そして、『意識』から『行動』に変えるため、例えば今の時期だと、予算要求があると思います。予算要求を児童生徒に理解してもらうことは難しいと思いますが、子どもたちの声を予算要求につなげることができるのは学校事務職員だけです。

Q2 ICT 活用、GIGA スクール構想などの教育改革に対しこれからの事務職員はどのように対応すべきですか？

A2 GIGA スクール構想において、学校事務職員ができることは ICT 機器が導入されることにより、どのような周辺機器が必要であるか、機器が故障した場合の対応業者はどこか、学校とどのような関係機関をつなぐことで ICT 教育がスムーズに展開されるのかを考えて、情報教育担当と協創することが必要であると考えます。

また、GIGA スクール構想を学ぶことも必要です。文部科学省や熊本県教育委員会の HP で検索し、国や県の取組の動向を知ることで、学校事務職員ができることに気づけると思っています。

Q3 コミュニティ・スクールがあまり進んでいない状況で、地域との連携を頑張っている学校事務職員の取組を伺いたいです。

A3 研究部ではコミュニティ・スクールの研究ができていない状況にあります。理由としては、全県下でコミュニティ・スクールの取組が共通して実施されていない状況にあるからです。コミュニティ・スクールの取組を頑張っている組織に依頼をして、会報等で紹介したいと考えています。

Q4 『機能』を今後研究していくとありましたが、方向性があつたら示して下さい。『協創』がやはりピンときません。説明をお願いします。

A4 『機能』とは研究部では、『教育環境整備やカリキュラムに応じた資源の調達や調整を行うこと』⇒『学校環境を子ども達の教育の場として整備し、授業・各種行事・教育活動に応じて資源を調達し、調整すること』としました。難しく説明していますが、『学校事務職員がすでにやっていること』であると思います。教育資源を調達すること（購入すること）だけではなく、教育活動や教員の事務の効率化や予算に応じた質や量を調整しなければいけません。調達できない『時間』についても、カリキュラムに応じて調整する必要があります。単純に役に立つという意味ではなく、学校現場において何らかの調整をすることで、行動に価値が生まれることが『機能』と考えています。

『協創』とは、協力して一緒に創ることで、その成果を分け合うことではないでしょうか。『協』は協力する、力を合わせることです。『創』は今までにない新しいものを作り出すという意味があります。教員と学校事務職員がそれぞれのゴールを目指すのではなく、教員の未知の力と学校事務職員の未知の力に地域の力を借りて、常に共通のゴール（学校教育目標や子ども達の笑顔等）を意識して、みんなで共通のゴールを目指すことだと考えています。研究部では、『協創』を、「マネジメントという機能的な方法で、学校事務職員会という組織が共通のゴール（子どもたちの笑顔）を意識しながら、教員組織と学校事務職員組織といった枠組みにとらわれず、戦略的意思決定である学校教育目標達成のために、機動的で機能的組織体制を構築すること。」と定義しています。

Q5 何に取り組めば良いのか、漠然としていてよく分からない。研究部員さんのなかで、どのような事に取り組んでいるのか、実践を聞きたい。

A5 例① 見学旅行先で昼食会場が見つからず、有料の会場を予約しようとしていたので、旅行先近くの無料で、昼食後に遊ぶことのできる場所を提案した。結果、経費の削減と児童が遊ぶスペースが確保できた。

例② 集団宿泊等大型バスでの生徒輸送の際に、乗降場所の確保をしている。大型バス8台が停車できるように場所の確保を幼稚園や市民会館に連絡をとって行っている。また、大型バスの誘導計画を提案し、教員に大型バスと保護者送迎車、一般車の誘導を依頼し協力してできている。

例③ 感染症対策を管理職に提案し率先して行っている。物品の効果と購入計画の提案を運営委員会で行い衛生面では養護教諭と連携し、換気やアルコール補充等を校務分掌担当教員に指示し各種委員会が実働していることで、生徒の感染症対策意識が高まっている。

例④ 事務室の片付けを徹底している。どこにあるのか、在庫は十分であるか等をだれが見ても分かるようにしている。このことにより、教員が必要物品を探す時間が減り、子どもと向き合う時間確保につながっていると感じる。

Q6 熊事研は地区研の活性化を目指し取り組んで欲しい。そして、「県大会の分科会において実践発表を考えています。」と説明がありましたが、今後実践発表を取り入れるのであればキャリア別研修はなくなり実践発表が主になってくるということでしょうか？

A6 実践発表については、「教育委員会との連携」の実践をされている学校事務センターにお願いしたことがあります。実践発表は郡市事務研の刺激になると思いますが、負担になるのも事実であると思います。郡市事務研の分科会での発表がなくなったことは、機構整備委員会で決定され総会で承認されたことですので、研究部でこのことを変えることはできません。しかし、会員のニーズに応えるのも熊事研組織ですので、キャリア別分科会の一部を実践発表の場にしても良いのではという考えがあります。キャリア別研修は、今後もしばらくは継続して行いますが、キャリア構成については検討していきます。

Q7 昔の県大会は多くの実践を通して交流する場であった。今は、実践から離れています。魅力を感じないのは、『場』を提供しなくなったからではないですか？

A7 実践発表については、A6で説明したとおりです。実践発表については、毎年の理事会において理事さん方にも郡市事務研の様子についてお伺いしていますが、郡市事務研が活性化して実践発表をしたいという声は聞かれません。また、郡市事務研の回数も年3回から4回程度しかなく、研修や研修の母体が市町村事務研や学校事務センター・共同実施単位での実践発表となると思います。そうなったときの負担等も考慮し、魅力ある熊事研大会の在り方を理事会等で話し合えればと思います。

7月のライブ配信では、まだまだ多くの感想等をいただきましたが、この場では質問やご意見に対して研究部での考えを掲載させていただいております。まだまだ聞きたいことがある会員の方は、お近くの研究部員までお願いします。熊事研の活性化は郡市事務研の活性化なしでは考えられませんので、研究部では各郡市の研究・研修担当者との距離を少しでも縮めるために、研究部と合同の勉強会も考えています。

1月大会もライブ配信となる予定です。7月大会の反省をもとに数多くの会員の皆様が視聴できるように、夏休みから研究部で話し合いを続けています。ライブ配信ですので、半日の研修にはなりますが、講演とパネルディスカッションにより、研究テーマである「リソースマネージャーとしての『連携』と『協創』」を討議の柱とし、「子どもたちの笑顔」が協創できるような研究大会にしたいと考えています。

熊事研研究部は、熊本県の学校事務職員のための組織です。学校事務職員がかかわる組織の活性化のために頑張りますので、これからも御理解と御協力をよろしくお願い致します。

令和3年度定期総会報告

熊本県学校事務研究協議会 事務局長 坂本 幸陽

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の状況のなか、本協議会総会の意義を踏まえ、今年度は6月22日～6月28日の期間、Google フォームを利用した書面表決にて実施しました。皆様の御理解と御協力をいただきありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症に関しては、今後も予測し難いところではありますが、熊本県学校事務研究協議会の今年度事業については、状況を見極めながら進めていきたいと思っておりますので、御理解のほどよろしくお願い致します。

令和3年度熊本県学校事務研究協議会研究会報告について

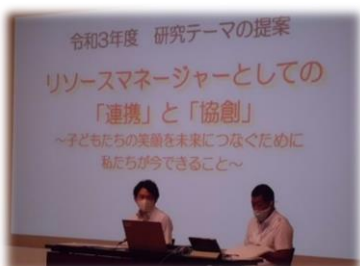
令和3年7月16日（金）に、YouTubeによるライブ配信を下記の内容で行いました。初めての取組に、役員一同味わったことのない緊張感のなか、無事に終わることができました。理事の先生方にも、事後アンケートとし反省点をまとめていただき、研究部として次回へ生かす大切な研究会となりました。

- 1 開会
- 2 会長挨拶 熊本県学校事務研究協議会 会長 宮崎 文子
- 3 研究基調 熊本県学校事務研究協議会 研究部長 平野 哲也
研究班長 山本 晋也



「リソースマネージャーとしての『連携』と『協創』」
～子どもたちの笑顔未来につなぐために私たちが今できること～

- 4 質疑応答
- 5 閉会



令和3年度 事務局・研究部 新入部員紹介

令和3年度事務局・研究部に計7名の新入部員が入りました。Q&A方式による自己紹介です。これから1年間、よろしくお願いします！

- ①現役職と氏名（ふりがな） ②現所属校
- ③現在、事務局員・研究部員として担当している業務 ④最後にひとこと、意気込みを！

【事務局】

- ① 事務局 田中 美里（たなか みさと）
- ② 相良村立相良北小学校
- ③ 一般会計（事務局）
- ④ 事務局1年目の田中美里と申します。すべてが初めてのことばかりですが、周りの先生方の力を借りながらなんとかやらせていただいています。コロナ禍で不安定なことも多いですが、いろいろチャレンジしていきたいです。これからよろしくお願いします。

- ① 事務局 水篠 こずえ
- ② 相良村立相良中学校
- ③ 会計（全事研会計・大会会計）
- ④ 初めての経験で分からないことばかりですが、迷惑をかけないように、少しでもお役に立てるよう頑張ります。

【研究部】

- ① 研究部 山本 晋也（やまもと しんや）
- ② 宇城市立松橋小学校
- ③ 研究班班長として、熊本版グランドデザイン策定にかかる研究をメインに各研究大会内容の確認等を行っています。
- ④ 「研究って難しいな。」と思っていましたが、意外と身近に研究材料や成果が転がっていることに気づきました。会員の皆様に多くのことを伝えられるように努力します。よろしくお願いします。

- ① 研究部 吉岡 翼（よしおか つばさ）
- ② 御船町立木倉小学校
- ③ 研究班 熊本版グランドデザインについて研究活動をしています。
- ④ 自分にできることはないか模索しながら、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



- ① 研究部 宮内 康貴 (みやうち こうき)
- ② 上天草市立龍ヶ岳小学校
- ③ 研究班
- ④ 初めての研究部で分からないことばかりですが、研究部で勉強させていただきながら、少しでも力になれるよう頑張ります。よろしくお願いします。

- ① 研究部 村上 裕樹 (むらかみ ゆうき)
- ② 熊本市立桜木東小学校
- ③ 情報調査班で学校事務必携の資料作成・編集をしています。
- ④ 分からないことばかりですが周りの先生方から学び、皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。

- ① 研究部 平松 幸大 (ひらまつ こうた)
- ② 荒尾市立荒尾第三中学校
- ③ 情報調査班に所属し、主に会報の発行や全事研調査を担当しています。
- ④ 2度目の研究部員となりました。扱う業務、目にする情報、すべてが勉強と思って取り組んでいきます。よろしくお願いします。

お知らせ

今後のことについていくつかお知らせです

① 7/16 研究会アンケート結果のHP掲載について

7/16 研究会のアンケート結果については熊事研 HP 会員専用ページにて掲載しております。閲覧には ID、パスワードが必要となりますのでご注意ください。

② 熊事研 HP の会員専用ページの ID、パスワードの周知について

熊事研 HP には会員専用ページがあります。会員専用ページを閲覧するためには、ID とパスワードが必要になります。専用 ID、パスワードについてはセキュリティ保持のため、別途理事よりお知らせをしていただきます。

③ 第 45 回熊本県学校事務研究大会の概要について (YouTube によるライブ配信予定)

日時 : 令和4年1月14日(金) 13:20~
概要 : 講演、パネルディスカッション
講師 : 廣田 貢氏 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課企画調整官
パネリスト : 廣田氏、教育委員会代表、校長会代表、学校事務職員代表、4名

あくまで予定ですので、急遽変更となる場合がございます。